

125. 第1時間目「社会の変化に対応してくーポップカルチャーで道徳が勉強できるか」、
第2時間目「社会の変化に対応ー新しいツールの誕生（科学の発達）：デジカメ、スマホ、インターネット（情報モラル）」（武蔵野中学校道徳、令和4年5月26日）

第1時間目「社会の変化に対応してくーポップカルチャーで道徳が勉強できるか」
（50分を想定）

おもな内容 以下はパワーポイントで進行（音楽、効果音、動画が含まれる）

- 簡単な講師の自己紹介（2～5分程度）
- 道徳を説明するとどういふものですか？（昨年と共通）（中一に質問予定）
 - ・よく言われること 道徳と規則の違い
- 文部科学省検定教科書「道徳」の目次より
 - 1 自分を見つめ伸ばして
 - 自分を理解する、自分のことを考える
 - 2 人と支え合って
 - 人間関係、友情、恋愛、共生、他者理解
 - 3 生命を輝かせて
 - 生命を尊重、心を豊かにする
 - 4 社会に生きる一員として
 - 社会とのかかわり、マナー、伝統の継承、情報社会（ネット社会）
- 建学の精神・他者理解 まず他者の存在を認め、その次に理解するように努める。他者をすぐに理解することはできません。容認するとは排除しないことが重要。（昨年と共通）
 - ・文部科学省 他者と共によりよく生きる
 - ・武蔵野学院の建学の精神と文部科学省の共通項。
 - ・「社会の変化に対応」に着目する
- 「社会の変化に対応の事例」
 - ・国際化からグローバリゼーションへ→ 異文化理解、教育やポップカルチャーの在り方
 - ※1時間目はこの内容で進める
 - ・新しいツールの誕生（科学の発達）→ デジカメ、インターネット
 - ※2時間目はこの内容でおもに進める
 - ・新型コロナウイルス感染症の発生と蔓延
 - 上記の2つに着目する。
- 常識や規範は変化するものなのか？（動画あり）
 - ・道路上の歩行者信号機と車の往来における海外と日本の考え方の違い
 - ・斜め横断 ⇨ スクランブル交差点の登場
 - ・歩行者天国

・鉄道、ディズニーランド、コミケなどにおける整列は日本文化（日本の教育制度）の象徴

●多様性について

・SDGsの目標には含まれていないが、世界中で大きく注目されているのが「多様性」

・「多様性」は他を認めることはもちろんだが、個性を認める、個性を重視する。異なることをどう認めていくか。

●ランドセルの色

・女子が赤、男子が黒の時代は終わった

●アニメには多様性を求めるものが多い。その一例を紹介。（動画あり）

●ドラマやアニメーション映画では身体障がい者を扱うものも登場し健常者には新しい問題提示となる。

・井上尚子監督『聲の形』（京都アニメーション、2016）

※全日本ろうあ連盟監修のもと道徳教材化され2015年に30分の実写DVD化された。

2016年には劇場版アニメーションが制作された。

・ドラマ（原作はマンガ）『恋です！～ヤンキー君と白杖ガール』（2021 放映）

※横浜市立盲特別支援学校監修

ねらい



中学校用の道徳の教科書をヒントに動画などを含めアニメやドラマなどで使用されたものをはじめ、実はディズニーランドなような一コマからでも道徳的な内容を読み取れることを狙いとした。

次ページ掲載の道徳の教科書の目次の「4 社会に生きる一員として」に着目し、特に（1）及び（2）及び「○「違い」って何だろう」に着目した。特に身体障がい者を扱う内容については、全日本ろうあ連盟、横浜市立盲特別支援学校監修のもので、かつ一般に公開されているものを使用した。

また、できるだけ新しいものを使用し、生徒がすでに見ている可能性のあるものを敢て活用することで、問題提起をしやすいものとした。また、後日、インターネット上のものや専門店でのレンタルなどで視聴がしやすいものである。

目次	
この本が使いたい 考え	4
1 自分を回つめ伸ばして	8
① 出逢いのある生活を	10
② 出逢いを深めよう	16
③ 出逢いを深めよう	22
④ ネット利用	26
⑤ 出逢いを深めよう	32
⑥ 出逢いを深めよう	36
⑦ 出逢いを深めよう	44
2 人と関わりあう	46
① 出逢いの深さを深めよう	48
② 出逢いを深めよう	54
3 生命を輝かせて	100
① 生命を輝かせて	102
② 生命を輝かせて	108
③ 生命を輝かせて	114
④ 生命を輝かせて	120
⑤ 生命を輝かせて	126
⑥ 生命を輝かせて	132
⑦ 生命を輝かせて	138
⑧ 生命を輝かせて	144
⑨ 生命を輝かせて	150
⑩ 生命を輝かせて	156
⑪ 生命を輝かせて	162
⑫ 生命を輝かせて	168
⑬ 生命を輝かせて	174
⑭ 生命を輝かせて	180
⑮ 生命を輝かせて	186
⑯ 生命を輝かせて	192
⑰ 生命を輝かせて	198
⑱ 生命を輝かせて	204
⑲ 生命を輝かせて	210
⑳ 生命を輝かせて	216
㉑ 生命を輝かせて	222
㉒ 生命を輝かせて	228
㉓ 生命を輝かせて	234
㉔ 生命を輝かせて	240
㉕ 生命を輝かせて	246
㉖ 生命を輝かせて	252
㉗ 生命を輝かせて	258
㉘ 生命を輝かせて	264
㉙ 生命を輝かせて	270
㉚ 生命を輝かせて	276
㉛ 生命を輝かせて	282
㉜ 生命を輝かせて	288
㉝ 生命を輝かせて	294
㉞ 生命を輝かせて	300
㉟ 生命を輝かせて	306
㊱ 生命を輝かせて	312
㊲ 生命を輝かせて	318
㊳ 生命を輝かせて	324
㊴ 生命を輝かせて	330
㊵ 生命を輝かせて	336
㊶ 生命を輝かせて	342
㊷ 生命を輝かせて	348
㊸ 生命を輝かせて	354
㊹ 生命を輝かせて	360
㊺ 生命を輝かせて	366
㊻ 生命を輝かせて	372
㊼ 生命を輝かせて	378
㊽ 生命を輝かせて	384
㊾ 生命を輝かせて	390
㊿ 生命を輝かせて	396
㊿ 生命を輝かせて	402
㊿ 生命を輝かせて	408
㊿ 生命を輝かせて	414
㊿ 生命を輝かせて	420
㊿ 生命を輝かせて	426
㊿ 生命を輝かせて	432
㊿ 生命を輝かせて	438
㊿ 生命を輝かせて	444
㊿ 生命を輝かせて	450
㊿ 生命を輝かせて	456
㊿ 生命を輝かせて	462
㊿ 生命を輝かせて	468
㊿ 生命を輝かせて	474
㊿ 生命を輝かせて	480
㊿ 生命を輝かせて	486
㊿ 生命を輝かせて	492
㊿ 生命を輝かせて	498
㊿ 生命を輝かせて	504
㊿ 生命を輝かせて	510
㊿ 生命を輝かせて	516
㊿ 生命を輝かせて	522
㊿ 生命を輝かせて	528
㊿ 生命を輝かせて	534
㊿ 生命を輝かせて	540
㊿ 生命を輝かせて	546
㊿ 生命を輝かせて	552
㊿ 生命を輝かせて	558
㊿ 生命を輝かせて	564
㊿ 生命を輝かせて	570
㊿ 生命を輝かせて	576
㊿ 生命を輝かせて	582
㊿ 生命を輝かせて	588
㊿ 生命を輝かせて	594
㊿ 生命を輝かせて	600
㊿ 生命を輝かせて	606
㊿ 生命を輝かせて	612
㊿ 生命を輝かせて	618
㊿ 生命を輝かせて	624
㊿ 生命を輝かせて	630
㊿ 生命を輝かせて	636
㊿ 生命を輝かせて	642
㊿ 生命を輝かせて	648
㊿ 生命を輝かせて	654
㊿ 生命を輝かせて	660
㊿ 生命を輝かせて	666
㊿ 生命を輝かせて	672
㊿ 生命を輝かせて	678
㊿ 生命を輝かせて	684
㊿ 生命を輝かせて	690
㊿ 生命を輝かせて	696
㊿ 生命を輝かせて	702
㊿ 生命を輝かせて	708
㊿ 生命を輝かせて	714
㊿ 生命を輝かせて	720
㊿ 生命を輝かせて	726
㊿ 生命を輝かせて	732
㊿ 生命を輝かせて	738
㊿ 生命を輝かせて	744
㊿ 生命を輝かせて	750
㊿ 生命を輝かせて	756
㊿ 生命を輝かせて	762
㊿ 生命を輝かせて	768
㊿ 生命を輝かせて	774
㊿ 生命を輝かせて	780
㊿ 生命を輝かせて	786
㊿ 生命を輝かせて	792
㊿ 生命を輝かせて	798
㊿ 生命を輝かせて	804
㊿ 生命を輝かせて	810
㊿ 生命を輝かせて	816
㊿ 生命を輝かせて	822
㊿ 生命を輝かせて	828
㊿ 生命を輝かせて	834
㊿ 生命を輝かせて	840
㊿ 生命を輝かせて	846
㊿ 生命を輝かせて	852
㊿ 生命を輝かせて	858
㊿ 生命を輝かせて	864
㊿ 生命を輝かせて	870
㊿ 生命を輝かせて	876
㊿ 生命を輝かせて	882
㊿ 生命を輝かせて	888
㊿ 生命を輝かせて	894
㊿ 生命を輝かせて	900
㊿ 生命を輝かせて	906
㊿ 生命を輝かせて	912
㊿ 生命を輝かせて	918
㊿ 生命を輝かせて	924
㊿ 生命を輝かせて	930
㊿ 生命を輝かせて	936
㊿ 生命を輝かせて	942
㊿ 生命を輝かせて	948
㊿ 生命を輝かせて	954
㊿ 生命を輝かせて	960
㊿ 生命を輝かせて	966
㊿ 生命を輝かせて	972
㊿ 生命を輝かせて	978
㊿ 生命を輝かせて	984
㊿ 生命を輝かせて	990
㊿ 生命を輝かせて	996
㊿ 生命を輝かせて	1000

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成 29 年告示）
 (2) 物事を広い視野から多面的・多角的に考える
 グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合
 いながら生きることや、科学技術の発達や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会
 の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応してい
 くためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提に
 して、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察するこ
 とが求められる。(16 頁)

- 1 上記を踏まえつつ、学校法人の建学の精神と文科省の道徳の考え方の根底にある
 「他者との共生」「社会の変化に対応」と道徳等を身近なところから考察を深めること
 ができる。
- 2 生徒の関心を高めるため、マンガ・アニメ・ドラマを取り上げながら身近なものか
 らテーマを設定することで、「道徳」を教わるのではなく、道徳を考える、あるいは多
 様性を考える一助として社会の変化や多様な価値観の存在を理解することができる。
- 3 生徒同士の発言から、発展的な学びへ展開すること期待しながら、生徒が講師との
 コミュニケーションにより授業を展開させ、双方向の授業をすることができる。

第2時間目「社会の変化に対応新しいツールの誕生（科学の発達）デジカメ、スマホ、インターネット（情報モラル）」（50分を想定：後半15～20分程度はワークシートの予定）
おもな内容 以下はパワーポイントで進行（音楽、効果音、動画が含まれる）

- デジタル機器の変遷
 - インターネットの利便性
 - ・携帯電話（スマホ）の長所と短所
 - インターネット（SNS）の認知度
 - ・日本では阪神・淡路大地震や東日本大震災での安否確認において利便性がクローズアップされたことを紹介。（昨年と共通）
 - デジタル社会での表現の問題
 - ・3本の短い動画を見せる
 - ・特に犯罪に巻き込まれる場合ものが1本。警察関係の外郭団体が作成したもの。実例から作成されたもの。
 - 知らない間に誤解が生じる
 - ・対処方法について
 - 「いたずら」⇔「犯罪」へ
 - 匿名性と自己満足（昨年と同様）
 - インターネットによるコミュニケーションによる不安感（FOMO等）（昨年と同様）
 - インターネット上の世界
 - ・細田守監督『サマーウォーズ』／『竜とそばかすの姫』
 - 実態のない友達（短所）
 - インターネットは個人でアピールできる（長所）
 - 後半に少し時間を取り、1・2時間目のまとめとして生徒にワークシートを記載してもらおう予定。
- ★ワークシートへの記載（生徒の活動）
- ・実生活で見慣れないものが多いため、多様性を理解するには難しいと思われる。生徒がどの程度、日常生活でいろいろなものを目にする機会があるのか。

ねらい

- 道徳の教科書の「○情報社会の光と影」の部分について、去年はバイトテロのような不適切な動画の投稿について取り上げたが、今回はより中学生寄りにし、動画の投稿時において背景の映り込みによりトラブルについて取り上げた。
- 使用した動画については専門機関が啓発用に作成し、インターネット上に公開されているものを使用した。

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成 29 年告示）

(1) 情報モラルに関する指導

社会の情報化が進展する中で、生徒は、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており、学校や生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは、学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

ア 情報モラルと道徳科の内容

情報モラルは情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度と捉えることができる。内容としては、情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワークがあるが、道徳科においては、第2に示す内容との関連を踏まえて、特に、情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に扱うことが考えられる。指導に際して具体的にどのような問題を扱うかについては各学校において検討していく必要があるが、例えば、思いやり、感謝や礼儀に関わる指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、遵法精神、公德心に関わる指導の際に、インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすることが考えられる。また、情報機器を使用する際には、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともあるため、指導上の配慮を行う必要がある。

(99 頁)

- 1 上記を踏まえつつ、情報モラル、特に情報社会の倫理について理解を深めることができる。
- 2 生徒の関心を高めるため、ニュースなどで取り上げられているもの、将来直面するようなリスク回避を含め、公德心について理解することができる。

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成 29 年告示）

(1) 自己を見つめる

道徳性の発達の出発点は、自分自身である。中学生の頃から、様々な葛藤や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。(15～16 頁)

- 3 インターネット上のトラブルは加害者と同時に被害者もまた自己嫌悪に陥ることがあり、こうしたことを防止することができる。
- 4 自分自身をアピールするために使用した SNS が思わぬトラブルを引き起こすことがあるが、正しく使用することで、その危険性も理解することができる。